

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第100号

発行日
令和7年6月1日

◇ 目 次 ◇

- P-2: 初代自然保護官 杉本 頼優さま 祝辞
- P-3: PVの会 25年の歩み
- P-5: みせん 100号の歩み
- P-7: 自然保護官 着任、離任挨拶
- P-8: 自主観察会(6)野鳥観察(地御前)
- P-10: 入浜池定点観察②
入浜池維持管理作業 ②
- P-12: 宮島学園卒業記念植樹
- P-13: (午前)定期総会・部会打合せ
- P-14: (午後)入浜池定点観察①
- P-16: 小なきり海岸 植物調査・清掃作業
- P-18 : 清掃登山(大元登山道)
- P-19: 追加記事: ①弥山原始林の植物マップの
樹木再調査
- P-20 : 編集後記

祝！みせん100号達成！



宮島地区パークボランティアの会会長 末原義秋 挨拶

平成11(1999)年8月から1年の研修を経て、平成12(2000)年6月3日に宮島地区パークボランティアの会を設立し、会員44名で活動を開始しました。本年6月には発足して25年と、会報誌「みせん」100号の発行を迎えます。

設立時の杉本保護官から通算して保護官16名、アクティブレジャー4名の皆様に支えられてきました。これからも会の目的である、国立公園の保護と適正な利用に寄与する活動を行って行きます。(写真：環境整備部会長 河野進)

初代自然保護官 杉本 頼優 様 祝辞



会報 100 号発行、誠におめでとうございます。また、長年にわたる活動、大変お疲れさまです。

私こと、1998 年 4 月から 2001 年 3 月までの 3 年間、広島自然保護官事務所に勤務しており、2000 年のパークボランティア会の発足に関わることができ、誠に光栄で自慢です。

当時宮島は、1 島で 1 町。離島で、様々な規制があり、何をするのでも割高。老朽化して管理費が嵩む施設、扱いに悩むシカ。そして、厳島神社と弥山まで含めた背後地が世界遺産に指定されたばかり。町への過度なしわ寄せがあり、町財政は、大変苦しかったと思われま

す。「地域への貢献と活性化のために何ができるのか考えよ！」というのが私の着任時の宿題で、その答えのひとつが「ボランティア活動を根付かせること」でした。

公募して約 80 名の応募がありましたが、やりたい活動を説明したところ、約 30 名の離脱者があり、当時、とても反省しました。活動のための資金・助成金には片っ端から応募。活動のたび新聞社へは取材のお願いをしたり、活動写真を提供してくれたら記載してあげるといわれ、提供したり。終われば記念写真を撮影して記録を残し、時には打ち上げのバーベキューをしたりしました。なぜか、毎回手探りの活動でしたが、皆さんに助けられ、私自身、自然体で楽しんでいたように思います。

年齢的にも体力的にも体力的にも個人差があるのは当たり前。誰かに負担を偏らせてはいけない、無理をさせない、お互いを尊重し合い、楽しくしなければ長続きしない。これが、パークボランティア活動の携わってきた私なりの結論です。妙高高原地区や宮島地区で学んだことを十和田八甲田地区・鹿沢万座地区で実践し、今年 3 月、大雪山地区を担当して 39 年の公務員生活とともに卒業しました。これからも健康に留意していただいて、楽しい活動を続けていただけたらと思います。

会の益々のご発展を祈念しております。

広島自然保護官事務所
初代自然保護官 杉本 頼優

PVの会 25年の歩み

宮島地区パークボランティアの会は平成12年6月(2000年)の設立総会で正式に発足、以来25年の歳月を重ねてきました。PVの会25年間の活動状況をまとめました。
(みせん設立20周年記念特集号に記載したものに5年間を書き加えました)

まとめ：岩崎広報部会長

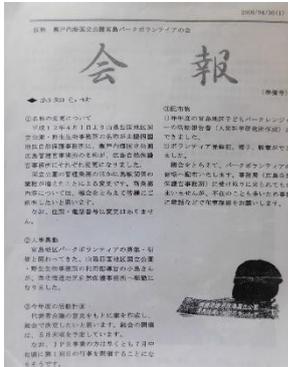
年/月	会の出来事		宮島での出来事
H11/7(1999)	会員募集、研修開始	H11/9	台風 18 号仁王門倒壊
H12/4(2000) 12/6/3 H12/8 H12/9	第 1 期会員登録 44 名 設立総会開催 JPR 支援活動(H12~H20 実施) 会報「みせん」創刊号発行	H12/3 H12	芸予地震 宮島来島数減少 250 万人 割れ
H13/5(2001)	初の公募観察会を弥山登山道で実施		
H14/2(2002) H14/3 H14/4	鷹ノ巣砲台跡整備 観察会テキスト 3 種 発行 新入会員 12 名 (会員総数 49 名)		
H15/1 (2003) H15/10	宮島栈橋 2 F に自然保護官詰所開設 樹木名板取り付け(109 種 567 枚)		
H16/2(2004) H16/4 H16/6	岩船岳登山(H16~H27 実施) 新入会員 8 名 (会員総数 48 名) 海岸植物群落調査 宮島地区 12 カ所	H16/9	台風 18 号襲来
H17/9(2005) H17/10	海岸植物群落調査 宮島地区 18 カ所 PVの会旗制定 ホームページ開設「みせん」公開	H17 H17/5 H17/9	ミヤジマトンボ協議会発足 霊火堂消失 台風 14 号襲来土石流災害
H18/5(2006) H18/6 H18/9	入浜海岸の再生へ調査開始 環境の日ひろしま大会参加(~H27) 弥山登山道の町石 「弥山の町石しらべ」発行	H18 H18/7 H18/11	世界遺産登録 10 年 霊火堂再建 大聖院 1200 年祭
H19/4 (2007) H19/9	新入会員 18 名 (会員総数 59 名) 入浜池水路整備作業		
H20(2008)		H20/9	通行止めとなっていた大聖院登山道が復旧
H21/6(2009)	RCC エコロジー大賞を受賞		
H22/4(2010) H22/4 H22/4 H22/6	新入会員 8 名 (会員総数 48 名) 入浜の調査、取り組みについての 「入浜調査報告」を発行 PV が選んだ新宮島八景 PV の会設立 10 周年行事 写真展開催 観音台公民館協力極楽寺トレッキング (~H28)		
H23/11(2011) H23	RCC エコメッセ出展(~H24) 「みせん」40 号国会図書館に収蔵		

み せ ん

H24/4(2012) H24	新入会員 14 名 (会員総数 56 名) 植物マップ改訂 茗溪会顕彰 (筑波大学同窓会) を受賞	H24/4 H24/7 H24/10 H24	厳島神社暴風被害 ラムサール条約登録 仁王門再建 宮島来島数 400 万人越
H25/7 H25/7(2013) H25/9 H25/10	ミヤジマトンボ協議会協力団体となる 国土交通省海事関係功労者受賞 瀬戸内海環境保全功労者 受賞 はつかいち環境フェスタ出展(~H27)	H25/12	弥山展望休憩所完成
H26/3(2014)	廿日市市民センター祭参加(~継続)		
H26/7	瀬戸内海国立公園指定 80 周年 記念式典参加、展示出展(高松) PV 配布用パンフ 展示パネル作成		
H27/4(2015)	新入会員 7 名 (会員総数 56 名)		
H27/7	パークボランティア感謝状授与 (15 年表彰)13 名		
H28/4(2016)			
H29/4(2017) H29/12	行事推進員制度導入 パークボランティア感謝状授与 (15 年表彰)3 名	H29	宮島来島数 456 万人
H30/4(2018) H30/5	新入会員 9 名 (会員総数 49 名) はつかいち美術ギャラリー 「絵画で見る国立公園」展協力		
R 元(2019)	パークボランティア感謝状授与 (15 年表彰)3 名		
R2 /3(2020)	新型コロナウイルス感染のために 会の活動中止		
R2 /4 R2 /4 R2 /12	20 周年記念の缶バッジ製作 新型コロナウイルス感染拡大防止 のため 総会中止 (書面決議) 設立 20 周年記念懇談会開催 みせん設立 20 周年記念特集号 (文集写真集)発行	R2/10	「紅葉 谷川庭園砂防施設」 を重要文化財指定
R3 /4(2021)	新入会員 9 名 (会員総数 46 名)	R3 /4	etto 宮島交流館オープン
R4 /6(2022) R4 /12	会運営のホームページ開設 (みせん 88 号より掲載) パークボランティア感謝状授与 (15 年表彰)5 名	R4/7 R4/12	広電宮島口駅新駅供用開始 厳島神社大鳥居改修工事 (2019~)完了
R5(2023)		R5/5 G7 R5/10	新型コロナ感染症 5 類移行 広島サミット開催 宮島訪問税徴収開始
R6/4 (2024)	新入会会員 9 名 (会員数 41 名)	R6	宮島来島者 485 万人
R7/6(2025) R7/12	設立 25 周年 設立 25 周年記念懇談会(予定)		

みせん100号 歩み

会員の絆として25年 おかげさまで創刊から100号



みせん準備号(2000年4月)



みせん1号(2000年9月)



みせん20号(2005年6月)

この度みせん100号発刊を迎えることができましたのも25年に渡るPV会員の活動の成果の集大成です。創刊号から記事の収集と編集・校正に汗された初代編集の足立会員をはじめとした歴代の編集担当者に感謝いたします。また行事ごとに活動記録や感想記事を寄稿いただいた会員各位のご協力のたまものだと思います。

PV会員は2000年4月に会員登録をし6月3日に設立総会を行い活動を始めました。みせんは準備号を4月に創刊号(1号)を9月に発行、以来欠かすことなく3ヶ月毎に発行、ここに記念すべき100号に到達しました。

当初はまだアナログの時代、紙で紙面を作りいわば切り貼りの編集過程で、白黒の紙面に、表紙の画像部分だけカラーで出力し一枚一枚貼り付け、郵送で会員に配布をしていました。20周年時に発行した「設立20周年記念特集号」に掲載した毎年の総会時の会員集合写真も当初は現像写真でPCデータがなくスキャナで取り込んで復元したもので写りが良くなく時代を感じさせます。その後パソコンとデジカメの普及に伴い20号以降パソコン編集としメールにて会員配布を行うことになりました。環境省ホームページでみせんが公開できるようになったのは2005年からです。

丁度10周年の年、2010年のみせん40号はなんと国会図書館に収蔵されました。寄贈を求められたわけではなく、ある時図書の検索をしていた時に気が付いたものです。国会図書館が宮島地区パークボランティアの会の活動に注目してくれていた証となり、感動しました。

みせん発行の最大の危機は新型コロナウイルス感染症が拡大し活動を休止せざるを得なくなった時(2020年3月から9月まで)です。みせん81号は載せるべき活動記事が無い! 休刊も考えましたが、途切れさせるわけにはいかないとの思いで投稿文などの内容にて発行にこぎ着けました。

2022年には環境省のホームページから独立して会独自のホームページを持ち、みせん88号以降移管しています。会員専用のページも開設準備はできているのですが、担い手不足で進展できずにいます。これまで表紙を飾った写真については一昨年の会員自主発表会に 現在みせんの編集を担ってもらっている麻生会員から解説をしてもらいましたのは 大変興味深かったことでした。

みせんは100号まで総ページ千ページを超える大部のものとなっています。すべてがホームページ上で閲覧できますので 一度すべてを読み返してみたいはいかがでしょうか。会報を眺めていると当会の活動の歩みとその折々の時勢を偲ぶことができます。また新会員加入時に掲載される自己紹介は新旧会員の相互理解とコミュニケーションを図るうえで大変役立っています。

会報みせんの内容充実は一ひとえに会活動の充実にかかっています。また25年に渡りすでに退会された方も含め250名余りの会員の足と汗の結晶です。会報の編集と発行は労力が要りますが、会の活動記録と会員の絆という大切な役割を担っています。これからも「みせん」が会活動と共に永続していけるように新しい方に引継ぎ会員一同努力していきたいと願います。

広報部会長 岩崎 義一



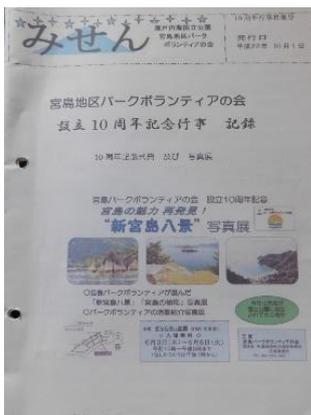
みせん 40号(2010年6月)



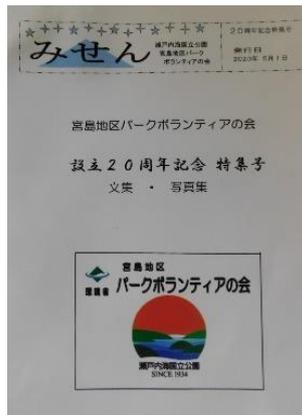
みせん 50号(2012年12月)



みせん 80号(2020年6月)



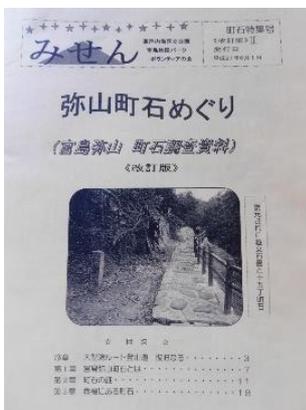
設立 10周年記念
特集号(2010年10月)



設立 20周年記念
特集号(2020年5月)



入浜調査報告
2010年4月



町石特集号改訂版
2009年6月

中口自然保護官 着任挨拶



出身地：愛知県
経歴：民間企業に1年勤めた後、令和5年4月に入省。北海道地方環境事務所（札幌）を経て、令和7年4月に広島事務所に着任。
趣味：柑橘の皮を剥くこと（食べること）。最近は瀬戸内海の島々を巡っています。

ひとこと：
はじめまして、中口と申します。前任地では大雪山国立公園や利尻礼文サロベツ国立公園、昨年新しく誕生した日高山脈襟裳十勝国立公園に携わる業務を担当していました。“次は海や島に関わる公園に行きたい”と要望していましたので、初の異動で広島に来られたこと、嬉しく思います。瀬戸内海国立公園は圧巻な多島海景観だけでなく、宮島をはじめ文化や歴史も多く感じられる公園で、これぞ日本ならではの国立公園！と日々感じております。パークボランティアの皆様とこの魅力を伝え続けられるよう、一緒に活動していけたらと思っております。私自身、オーストラリアに1年間旅をしていた時に国立公園でボランティアをしていた経験があり、ボランティアの方々にたくさんのことを教えていただきました。この宮島でも皆様に教えていただいたことを業務に活かせるよう、努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

内山自然保護官 離任挨拶



4月1日付けで広島事務所から浦富自然保護官事務所（鳥取県）に異動となりました。

皆様には、宮島の自然も歴史も様々なことを勉強させていただき、本当にありがとうございました。

恥ずかしながら広島に来るまで宮島は厳島神社しか行ったことがありませんでしたが、それ以外の宮島の魅力をたくさん知れたこと大変嬉しく思っています。

特に昨年この時期に実施した高安ヶ原・青海苔浦 清掃登山はとても思い出深いです。

先日の総会で挨拶がありご存じかもしれませんが、当方の後任は中口となります。至らぬ点もたくさんあったかと思いますが、2年間大変お世話になりました。引き続き変わらぬご指導のほど、よろしくお願いいたします。

自主観察会(6) 野鳥観察 (地御前)

日時：2月8日(土) 9:00~11:30

天気：小雪

行事推進委員：大西 穂井田

参加者：青木 岩崎 大西 小川 折出 河野
末原 豊原 穂井田 村上(慎) 元広
山本(昌) 以上 12名

野鳥の会：2名

コース：地御前神社～地御前神社前海岸
～港～調整池～地御前海岸

小雪が舞う観察会となりました。

社殿の近くでは、シジュウカラ、スズメ、ジョウビタキ(オス)が見られました。

社殿の裏を見ると、アオサギが5羽、木々の上にとまって、海の方を向いてじっとしていました。

次に神社前の海岸に出ると、陽光の下、きらきらと光る海面に10数羽の水鳥たちがブカブカと浮かんでいました。オオバンや、ヒドリガモのつがい、赤い目をしたホシハジロ、長い尾が特徴のオナガガモが見られました。カモには潜るものと潜らないものがあり、食べているものが違うから、一緒にいることができるのだそうです。

また、遠くを見ると、岸壁に積まれた牡蠣殻の山の上で10数羽のユリカモメが舞い、群がっていました。さらに、砂浜では、セグロセキレイが1羽いました。同じところにツグミが1羽いて、何かをついばんでいました。

さらに港へと向かいます。ズグロカモメが、さっと空を横切っていきました。空を見ると、ミサゴも現れました。その他には、ウミネコ、カワウも見られました。さらに海沿いを進むと、カワウが二羽見られ、海からあがったところにある岩先で、翼を乾かしていました。そこから少し遠くを見ると、一羽のカイツブリが港の中の海面をスイスイと横切っていました。さらに防波堤を見ると、コサギが2羽、静かに休んでいました。

さらに進むと、目の前の防波堤の上に、一羽のセグロカモメがとまってじっとしていました。セグロカモメは下嘴に赤斑があるのが特徴です先ほどのユリカモメよりはずっと大きく見えます。

先ほどまで陽が差していたのに、小雪が舞い始めました。水路に出ると、水面をスイスイと泳いでいるコガモと、岸辺でじっとしているカルガモに出会いました。そのそばで、オオバンが泳いでいるのが見えました。その時、カワセミが現れて、枝にとまったのですが、ススキの茂みで見えにくく、しかし、複数の会員が姿を見ることができて喜んでいました。

最後に地御前の海岸へ出ました。曇り空のもと、冷たい風が吹いていて、かなり寒かったです。

オカヨシガモがペアで水面をスイスイと泳いでいるのが見えました。また、ハシビロガモがペアで、お尻を出して半分潜っているのも見えました。さらに、1羽のマガモが、杭の上でじっとしていました。幸運にも、シロチドリやハマシギの群れを見ることもできました。

観察会の終わりに、全員で鳥合せをしました。オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、ヨシガモ、カルガモ、ハシビロガモ、エナガ、コガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ズグロカモメ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、ハマシギ、シロチドリ、ウミネコの名前があがりました。たくさんの野鳥たちと出会えた実りの多い観察会となりました。行事推進員の皆様、参加された会員の皆様、大変お疲れさまでした。

(文：元広 写真：河野)



地御前神社



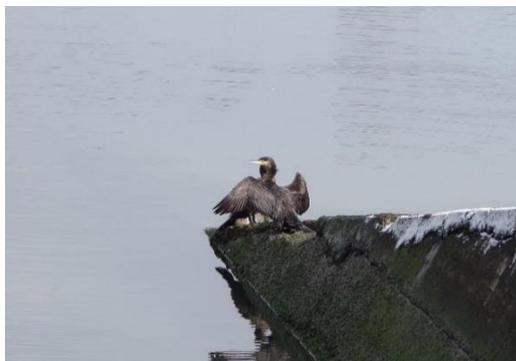
桜堤



ヒドリガモ・オオバン他



ヒドリガモ



カワウが翼を乾かしています



堤防



みせん 100号

入浜池定点観察②

入浜池維持管理作業②

日時：2月15日（土）9:00～12:00

天気：晴れ

行事推進員

観察部会：大西 小川 穂井田 松田 元広

環境整備部会：上杉(裕)、上杉(幸) 恩田

参加者：上杉(裕) 上杉(幸) 大西 小川
河野 末原 兎谷 長村 畑野
穂井田 舛田 松田 村上(慎)
元広 山本(昌)
以上 15 名

【維持管理作業】上杉(裕)

当日は大潮（満潮は 11:29）で潮位は 35cm、しかし水路が流木や土砂、ゴミに塞がれていたため、入浜池への海水の流入は認められませんでした。

また最近の降水量不足のため、入浜池は干上がった状態になっていました。

海岸のゴミはカキ筏の破片等漂着したもの（特に塩ビパイプの支持材の破片が目立ちました）と食品のパッケージや空き袋等でした。

また、焚き火の痕跡が複数あり、マキとして持ち込んだと思われる廃材が詰められた袋がいくつか放置されていました。



入浜海岸の清掃作業

【水質調査】小川

調査班：小川 末原 舛田

昨年 12 月から調査日までの降水量が少なく、池の水位が低下していた（写真 1）。全地点で水がなく、標識杭の近くで採水を試みるも足が泥にはまり立つこともできず、採水できたのは B 地点だけであった。そのため、臨時の調査地点として山側の採水可能な場所で採水した（写真 2）。

結果は次表のとおりです。

調査日等	2025.2.15（曇時々晴） / 調査開始時の気温8°C / 前日（晴）			
天文潮位	広島湾 満潮 11:29 (335cm) 干潮 5:14 (10cm)			
地点	B	臨時	山水	海水
調査時刻	9:40	10:03	10:25	10:40
水流等	なし	なし		
油膜等	なし	なし	濁りなし	濁りあり
杭（±cm）	水無し	—		
水温（°C）	5.5	9.6	5.2	10.9
水深（cm）	—	5	10	10
pH	6	6	6	7
塩分（%）	0.56	0.35	0	2.98
COD	8以上	8以上	2	
備考	杭から80cm	(※)	10ℓバケツは11秒40	
池 状 況 等	(※) 臨時の調査地点は、山側のC'とDの間で、道路の方向に半島のように突き出た部分の先端である。 ・全地点で水位が標識杭に達しておらず、水路に水無し。 ・C'からD、D周囲には、イノシシのぬた場が多数あった。（毛の痕跡あり）			



写真 1 入浜池全景 左端は車道沿いの松



写真 2 臨時の調査地点

流木の先端で採水する末原会員、反対側の端を踏んで支える舛田会員

【野鳥観察】 元広 修爾

調査班：大西 穂井田 元広

調査日は、2025年2月15日（土）でした。天候は、晴れでした。入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の3地点で調査を行いました。

本日の嬉しい出会いのひとつ目は、ミサゴでした。スコープを覗くと、山中にミサゴの大きな巣がひとつ見えました。近くにいた複数の会員と共有しました。

もうひとつの出会いは、海辺の上空をトビと飛んでいたノスリでした。丸みを帯びた尾羽が見えました。大西会員、松田会員、私の3名で確認しました。

皆様、お疲れ様でした。

入浜 野鳥定点調査 2025年2月15日
晴れ 9:30～11:00

種名	数	種名	数
トビ	3	モズ	1
ミサゴ	2	シロハラ	3
ノスリ	1	カワウ	1
ヤマガラ	4	アオサギ	1
シジュウカラ	1	ルリビタキ(メス)	1
コゲラ	2	ツグミ	1
ジョウビタキ	2	アオジ	5
メジロ	2	ヒヨドリ	5
ハシボソガラス	5		
ハシブトガラス	1		計18種

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』(2002年 日本野鳥の会広島県支部(編)中国新聞社刊)による。



【植物観察】 山本 昌生

調査班：山本

ヒトモトススキ調査

シカよけネットで保護している2か所は、前回の11月9日の調査とほぼ差がありませんでした(データ省略)。シカの影響と思われませんが、ネットがずれていたため修正しました。池の水がこれまでに少なく少なくなって、ヒトモトススキの減少具合がよくわかりました。この時期に緑色の葉が確認できる株は数えるほどしかなく、シカが近づきにくい水の中か、シカの口が届きにくいほど大きくなり新芽付近を食べられていない株が残っていました。

2. まわりの植物の状況

開花している植物はなく、開花間近のヤブツバキや春の訪れを待つ小さな蕾をもつタイミンタチバナ、シロダモ、イヌガシ、シキミ、ヒサカキがあり、ネズが実をつけていました。また、海岸には生育中のイワタイゲキを見ることができました。



シカよけネット内のヒトモトススキ
(左：実生株、右：移植株)



植物調査(ヒトモトススキ)



宮島学園卒業 記念植樹作業協力

日 時：3月13日(木) 9:00～15:30
天 候：晴れ
参加者：黒川 末原 中丸 以上3名

宮島学園卒業記念植樹は、国有林である宮島ロープウェー獅子岩駅周辺の植生を復元させるため、広島森林管理署体験植樹事業の一環として、8年前から宮島学園の卒業生（9年生：中学3年生）が、広島大学宮島植物実験所の坪田准教授のご指導により、島内で拾った種子を蒔き育てた苗木を植樹しています。

植樹作業には、宮島学園卒業生12名・伊豆田校長先生と教員、広島森林管理署、廿日市市教育委員会文化財課、広島大学宮島植物実験所の職員と学生、ボランティア団体の宮島弥山を守る会、当会3名を含めて総勢53名の参加でした。

参加者は、午前9時30分に宮島ロープウェー紅葉谷駅に集合し、参加者全員で苗木や道具を持ってロープウェーに乗車し獅子岩駅に到着、開会式では、伊豆田校長先生の挨拶、坪田准教授から植樹作業手順の説明後、作業を開始しました。

作業では苗木を植える掘削穴が、文化財保護法の許可範囲内（直径30cm、深さ30cm）であるかの確認を廿日市市文化財課職員が行った後に、腐葉土を混ぜて苗木を植え、シカ除け防護柵の設置、水撒きを行いました。作業の穴掘り、植樹、防護柵の設置は生徒が行い、他の参加者は苗木や物資の運搬等を行う補助を行いました。

植樹本数は、新しく植えた樹木30本、枯れた樹木の植替え10本の合計12種40本を植え、午後3時頃終了しました。

この植樹には、昨年12月に逝去された増田武彦様が宮島のヤマザクラの種子を蒔き育てた苗木2本を故増田様の奥様、娘様と孫の3人に見守られて植樹しました。

（ 文・写真 末原 ）



開会式



作業状況



作業状況

定期総会・部会打合せ

日 時：4月12日（土）9:30～12:15
 場 所：宮島まちづくり交流センター杉之浦
 出席者：青木 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸)
 大西 小川 折出 恩田 熊埜御堂
 黒川 河野 佐藤 末原 種本 兎谷
 豊原 中丸 中道 長村 畑野
 穂井田 舛田 松田 村上(慎)
 村上(光) 森 山本(加) 山本(昌)
 以上 28 名
 (委任状提出者 8 名)

環境省：中口自然保護官 大高下 AR

1.開会（司会 岩崎副会長）

配布資料・当日の式次第の確認のあと、出席会員全員が自己紹介を行った。

2.開会挨拶

・環境省中口自然保護官

札幌より4月に着任。以前広島勤務の自然保護官より宮島PVの活動はよく聞いていた。暖かい広島で歴史ある宮島を学んでいきたい。

・大高下 AR

宮島PVに携り17年目となる。広島事務所所管の仙酔島・大久野島の開発整備についてと 国立公園乃印のパンフレットを配布し紹介をする。

・末原会長

会員動静は3名退会で会員数は38名となる。

本年度設立25年を迎え会報誌みせん100号となり、会員の協力のたまもの。25周年記念行事を行う。昨年度活動は雨天2日の中止はあったものの順調に行えた。高齢、体力と相談して無理怪我の無いよう、無事故無違反を続けて、都合のつく時にボランティア活動をしてもらいたい。

3.総会の成立確認

出席者28名、委任状提出者8名、合計36名 全会員数38名の半数以上であり、総会成立を確認。

4.議事（議長 末原会長）

次の4議案につき会長、各部会長、会計、監査から説明・報告があり、異議なく承認された。

- ・議案第1号 令和6年度活動報告について
 - ・議案第2号 令和6年度決算及び監査報告について
 - ・議案第3号 令和7年度活動計画（案）について
 - ・議案第4号 令和7年度予算（案）について
- その他審議事項はなし。

5. 当面の行事案内、大高下 AR からの新規会員募集など連絡事項を行った後、総会終了。会場玄関横にて集合写真を撮影する。
6. 各部会に分かれ部会打ち合せ行う。今年度の活動計画の具体化を中心に討議し、11時45分より12時15分に終了した。
7. 昼食を挟んで、午後から小なきり海岸植物調査及び清掃活動と入浜池定点観察の活動を行う。

(文 : 岩崎 写真 : 岩崎 河野)



観察部会打合せ



総会全体写真



環境整備部会打合せ



総会全体写真

(午後)入浜池定点観察①

【調査名称を「入浜池定点観察」に統一】

今年度から入浜の自然環境調査は、維持管理作業の有無にかかわらず「入浜池定点観察」と称されることになりました。平成26年度から令和6年度までは、維持管理作業と併せて行う場合を「入浜池定点観察」、調査だけを行う場合を「入浜池補足調査」と称していました。

日時：2025年4月12日 13:30～15:30

天気：曇り

行事推進員：大西 小川 穂井田 松田 元広

参加者：大西 小川 豊原 中丸 中道

穂井田 松田 山本(昌)以上8名

(環境省) 中口自然保護官

【水質調査】小川

調査班： 小川 豊原 中口自然保護官

手違いで塩分計を忘れ、詰所まで取りに戻ったため、ほかより遅れて調査を開始。陸地化したC及びC'地点を除いた地点で採水できた。(写真1)

調査結果は次表のとおりです。

調査日・天候等	2025年4月12日(曇り) / 調査開始時の気温14.5℃ / 前日(晴れ)							
天文潮位(広島湾)	満潮 9:25 (潮位 324cm)				干潮 15:35 (潮位 42cm)			
地点	A	B	中央	D	E	F	山水	海水
調査時刻	14:03	14:45	14:10	14:17	14:20	14:25	14:40	14:30
水流等	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
油膜等	なし	なし	なし	なし	少しあり	あり	透明	透明
杭(±cm)	-12	-11	水無し	—	-15	-16		
水温(℃)	18.9	20.2	21.3	20.1	18.7	17.1	12.1	13.7
水深(cm)	6	10	3	8	9	9	—	1
pH	6	6	6	6	6	6	6	7
塩分(%)	0.28	0.29	0.27	0	0.31	0.31	0	2.18
COD(バックテスト)	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	0	0
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・C及びC'地点は、付近にも水がなく、採水できなかった。 ・D地点は、標識杭がないためおおよその位置で採水した。 ・F地点とその下流数メートルまで水はあった。水流は目視で確認できなかった。 ・水路の水は途中で消失していた。 ・山水の10ℓバケツ満水時間は15秒だった。 ・池全体の水がわずかに淡褐色を呈し、採水時にも水の濁りが認められた。 ・C~D付近にイノシシの足跡が目立った。ぬた場様の水たまりが複数見られた。 							



写真1 中央地点。
写真中央に白い標識杭がある。



写真2 F地点。
手前が池、右奥が水路。青いバケツの下に赤いテープを巻いた標識杭がある。足元の黒い蛇腹ホースは、池の堰として令和5年6月に設置された。

F地点では水がよどんでいた(写真2)。水路の下流には水がなく、底に堆積した礫の表面は乾いていた(写真3)。採水地点の水温が気温より2.6~6.8℃高かった。池の塩分は、山側のD地点で0%、他は0.27~0.31%であった。CODは全地点が8以上であった。

池全体において水流や湧水は目視で確認できなかったが、D地点の塩分が0%だったので、山側からの水の供給はありそうだ。池の水が濁っていたのは、水の入れ替わりが少なく、水温が20℃前後だったことから、プランクトンの増加によるものと思われる。(今年も、メダカの大増殖とサギ類やカワセミの飛来を期待しています。)



写真3 水路下流。
F地点は右奥にあるため見えない。

【野鳥調査】 大西順子

調査班：大西 穂井田

現地ではウグイス達のさえずりが聞こえてきて春らしい野鳥の世界に包まれました。その合間に「ジュリリ ジュリリ ジュリリ」とエナガが馴染みの声で鳴きながら数羽が飛び交っていました。いずれも早めの繁殖が無事に済んだのかなあ〜と「春だ〜!」と感激しました。

春になっても寒い日が続いていたので、当日は和やかな春を感じることができました。現地に着くと同時に、真っ黒くて喉にオレンジ色が目だった小鳥2羽が、砂浜から岩場を通過して林の中に飛び込んできました。瞬間に「ノビタキ雄」と判断しました。北へ向かう渡りの途中で、休息とエサ取りのために立ち寄ったものと思うと、その疲れはいかばかりかと思われて、追いかけて写真を撮ることができませんでした。今思うと陰に隠れて探せば良かったのではないかと残念に思っています。また、いつもいるはずのメジロを確認できなかったのですが、林の奥で子育てをしているのかなと思いました。

14:00~15:30

種名	数	種名	数
アオバト	1	ウグイス	5
ミサゴ	1	エナガ	11
トビ	3	シロハラ	1
コゲラ	1	カワラヒワ	1
ハシボソガラス	3	ホオジロ	1
ハシブトガラス	1	ノビタキ(♂)	2
ヤマガラ	1		
シジュウカラ	6		
ヒヨドリ	35		計16種

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

*調査地以外でオオルリの雄1羽を確認しました

【植物観察班】：山本(昌)

1. ヒトモトススキ調査

シカよけネットで保護している2か所は、秋から春先にかけては成長が認められず、昨年11月9日、2月15日の調査時とほぼ差がありませんでした(データ省略)。

2. まわりの植物の状況

開花していた植物は、ヤブツバキ、アセビ、サルトリイバラ、ヒサカキ、ナガバタチ

ツボスミレでした。ハンゲショウが芽を出し始めていました。入浜から包が浦への道の途中で黒くて艶やかなヤマモガシの実を観察しました。



ヤマモガシの実(長さ約1cm)、
サツマニシキの食草

小なきり海岸 植物調査・清掃作業

日時：2025年4月12日 13:30~15:30

天気：曇り

行事推進員：伊藤 舛田

大林 恩田 山本(加)

参加者：青木 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 折出
恩田 熊埜御堂 黒川 河野 末原 種本
兎谷 長村 舛田 村上(慎) 村上(光)
森 以上17名

(環境省) 大高下 AR

小なきりの植物調査

参加者：末原 長村 舛田

今年は“花が咲いている樹木に注目してみよう”とテーマを決めて実施しました。

「宮島における植物の開花時期」を参考に、4月開花している樹木を対象に観察しました。ハンゲショウ湿地から大なきり方面へ、浜から見える範囲での観察です。

ザイフリボク・コバノミツバツツジ・シキ
 ミ・アセビ・ヒサカキ・ヤブツバキ・ヤマザ
 クラ・ネズ・タイミンタチバナ・アカマツ
 遠目に見ての確認なので花を細かく観察はで
 きませんでした。春の花を愛でることがで
 きました。



でも無限にありました。また、ペットボトル
 や空き缶などの他、約1m四方のパレットみ
 たいなものや、社の部品と思われる木材もあ
 りました。先程のパレット(みたいなもの)を
 回収したかったのですが、残念ながら、砂に
 深く埋もれていてびくともしなかったため、
 諦めました。

海岸には、ひざ下くらいの枯れたような草
 木(名前は覚えていません)が生えており、
 以前大高下さんに「それは枯れているわけ
 ではなく、生きているのよ。」と教えてもらっ
 たことを思い出しました。それで、ゴミはその
 草木に多く絡まっていたのですが、できる
 だけ傷つけないよう努めながら、清掃を実施
 しました。

(文：上杉幸江 写真：河野)



ハンゲショウの若芽
 (文：舛田 写真：河野)



清掃作業

小なきり海岸清掃作業

定期総会が終わって、昼食を取った後、歩
 いて小なきり海岸に向かいました。今回も、
 カキ筏に使用されていると思われる発泡スチ
 ロールやパイプが多く見られ、拾っても拾っ



清掃作業



集合写真

清掃登山（大元登山道）

日時：4月26日（土）9:00～16:00

天気：晴れ

場所：登山道 大元コース

行事推進委員：熊埜御堂 村上(慎) 吉賀

参加者：岩崎 小川 折出 河野 末原 中丸

穂井田 舛田 村上(慎) 森 山本(昌)

吉賀 以上12名

今回は趣向を変えて樹木調査を兼ねた清掃登山を行いました。理由は1月11日の新春弥山登山で、紅葉谷コースの「ミミズバイ」の生育状態と生育範囲を観察したのがきっかけです。次回の登山はぜひパンフレット「宮島弥山原始林の植物（平成23年12月1日発行）」の『弥山原始林の植物マップ』記載の樹木を調査しよう！となりました、

大元コースの対象樹木は54種80本、これを3班（①登山道～富士岩 ②富士岩～16町 ③16町～仁王門）各4名に分かれ調査開始。樹皮ハンドブック、照葉樹ハンドブック、河野環境整備部会長作成オリジナルハンドブックを参考に、マップ作成から14年経過した現状を確認していきました。

確認作業が意外と難しく、樹木の見分け方で、花や実があればすぐに判断できるが今の時期はそれが無い。葉っぱを見ようにも高すぎて手が届かない。樹皮も似たような木が複数あれば断定しづらい等々。（樹木に疎い文

作成者の個人的見解です）存在が確認できた樹木は、幹周りと全体を写真撮影し幹の直径と樹高および特徴や自生場所を記録していきました。

思いのほか時間を要し全て調査出来なかったため予定を変更し、弥山山頂には行かず仁王門で昼食を取り、また、帰りも来た大元コースを下山しました。こうなるとボランティア魂に火が着き、未調査であった樹木も全て調査を行い宮島栈橋に到着したのは、予定より1時間半遅れの16時となりましたが、達成感を十分に感じることができ、樹木を知ると登山の楽しみが広がることを実感しました。

調査結果は54種80本中、樹木有：36種52本、不明：25本、枯木(切り株)3本で、樹木有は65%でした。

最後に清掃結果について、登山者が他2コースに比べ少ないためほとんどゴミはありませんでした。また、このコースの登山者はほとんど外国の方でした。（これも文作成者の個人的見解です）

（文：村上(慎) 写真：河野）





追加報告

① 弥山原始林の植物マップの樹木再調査

(2025年1月11日(土)活動
自主観察会(5)新春弥山登山)

前号(99号)で紹介した新春弥山登山には、会員自主観察会として2002年(平成14年)発行の「弥山原始林の植物マップ」を用いた。このマップには、登山コース別に主な植物名が記載されている。さらに比較的大きな樹木については、Φ32のように、測定した幹周りを基に幹の直径が記されている(2011年(平成23年)発行の同じマップには、直径の数字は省略されている)。

23年前にどのような形で計測されたのか不明だが、直径を直接測ることは困難なため、幹周りの値を3.14で割ることで直径を算出することが便宜的に行われている。また、幹周りの測定は地面から130cmまたは120cmの高さを計測する。今回の調査では環境省生物多様性センターの計測マニュアルに従い130cmの位置で計測した(写真1)。なお、一般財団法人日本緑化センターでは120cmの位置としている。弥山登山コースでΦが記している樹木の調査結果を表1に示した。この中で、№3のシリブカガシは、その位置にはシリブカガシはなく、アラカシだった(写真2)。

これは23年前にアラカシをシリブカガシと見間違えて記録した可能性が高い。

今回の調査で高木の調査は、手元で葉の詳細を見ることができないので、非常に困難であると感じた。望遠レンズをもつカメラや高倍率の双眼鏡で葉を確認するとともに幹の肌(樹皮)の情報を合わせて同定できればと考えている。またクマノミズギがあった位置にはなにもなく長期間の中断があったため、枯れたのか、位置がわからなくなったのか不明であるが、枯れてしまった可能性が高い。

№5のツクバネガシは、過去の記録では直径88cmだが、今回地図で特定した個体の直径は58cmなので30cm小さかったため、当時の木は枯れてしまい異なる木を測定してしまったようだ。同じような木が複数あると迷うため、個体番号をつけると特定できる。

今回の調査では、黄色のテープ(広島県が設置?)に個体番号が付けてある木があった(写真3)ので表内に番号を記録した。今後はこの23年前の貴重なデータ(大聖院コースと大元公園コースを含む)を継続的に調査することが望ましいと感じた。

Φについて：図面によく使用される記号で、直径を意味します。「ファイ」という読み方が正式ですが、「パイ」や「マル」とも呼ばれます。例えばΦ50とあれば、直径50mmという意味ですが、今回の樹木調査の単位はcmとしています。

(文、写真：山本昌生)

表1 弥山紅葉谷コースの巨木調査
(2025.1.11)

No.	植物名	状態・備考	過去の大きさ ^{a)} (直径) cm	今回の結果 ^{b)} (直径・幹周) cm	黄色の テープ番号
1	アベマキ	生存	32	40・125	C125
2	ミミズバイ	生存	32	41・130	F82
3	シリブカガシ ではなくアラ カシ	生存	62	75・234 幹が上部で 二つに分か れ、各幹に	C593・594・ 595
4	クマノミズキ	枯死?	42	-	-
5	ツクバネガシ	異なる個体か?	88	58・181	D629
6	クロバイ	生存	44	53・167	E85
7	リンボク	位置不明	35	-	-
8	アカガシ	生存 2025年2月の積雪 により、主要な枝 が折れた	136	143・499	テープなし



写真3: アベマキのラベル C125

◇3月25日撮影

宮島町江之浦にある宮島町水質管理センターのヤマザクラは満開です。宮島で一番早いサクラの開花
(文、写真: 末原)

- a):過去の大きさ(直径)は2002年発行の「宮島弥山原始林の植物」の記録
b):今回は高さ130cmの位置で幹周を実測し、その値を3.14で割り、直径Φを算出した。
※アカガシの幹周は499cmだったため、巨木の定義(幹周300cm以上)に合致する。



写真1: 樹径測定



◇ 編集後記 ◇

100号は25年間の活動の記録。足立編集長、平田編集長、川崎編集長、前田編集長から私へと受け継いできた。沢山の会員が活動の都度に原稿を書いてくれた。写真も沢山。投稿記事も沢山。環境省のサポート。関係してくれた全ての皆さんありがとう。(麻生)



写真2: アラカシ

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局: 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455